びわこ地球市民の森

森づくりサポーターニュース

Vol.45

平成25年(2013) 7月1日発行

びわこ地球市民の森(森づくりセンター)
〒524-0101 守山市今浜町3089 TEL 077-585-6333 FAX 077-585-6312
メールアドレス moridukuri@ex.biwa.ne.jp URL http://www.ex.biwa.ne.jp/~moridukuri/

びわこ地球市民の森の“つどい 2013”が開催されました。

『びわこ地球市民の森のつどい2013』が4月21日(日)、“里の森ゾーン”で開催されました。明け方まで小雨の残る天候でしたが、およそ2000人の皆さんに参加いただきました。皆さんの熱意が通じたのでしょう、早朝には雨も上がり、開会式の頃には青空ものぞき、薄日も差す天気になりました。恒例の「ひなぎくこども園」の可愛らしい園児達によるオープニングセレモニーで元気よくスタートしました。ガールスカウト・ボーイスカウト・緑の少年団の代表の子ども達から葭本実行委員長・宮本守山市長・美濃部滋賀県土木交通部長にそれぞれ苗木が手渡されました。森の整備状況や植樹の説明、そして「森づくり宣言」の後、一斉植樹が行われました。

守山市民をはじめ県内外の方々、森づくりサポーターの皆さん、ガールスカウト・ボーイスカウトや緑の少年団の子ども達に3000本の苗木を植樹していただきました。『みどりに感謝し、みどりと共に』をテーマに、みんなの心と力を合わせて未来の森に思いをはせながら一生懸命、丁寧に植えていただきました。

植樹木：イロハモミジ・ヤマザクラ・ムクノキ・クヌギ・ウワミズザクラ・アラカシ・ヤマモモ・マテバシイの８樹種

森づくりサポーターの皆さんには今回も植樹の指導･自然観察クイズラリーなどのお手伝い、またガールスカウト･ボーイスカウトの皆さんには開会式からプラカードや植樹場所までの誘導などお手伝いいただきました。ご協力ありがとうございました。

当日は、大人から小さなお子様までスコップを手に一生懸命に植樹していただきました。『元気に大きく育ってね』の思いを込めて丁寧に植えられた苗木が未来の森に繋がっていくでしょう。

お昼には恒例の明富中学校吹奏楽部の皆さんによる見事な演奏も披露していただきました。

また、盛りだくさんの体験ブースや食のブースも大勢の方で賑わっていました。

特に、今年の「食のブース」では、福島県浪江町名物「太っちょ焼きそば」も出店、おいしい！と大好評でたくさんの人が並んでいました。また、守山青年会議所が仙台名物「牛タン丼」を出して、みんなで復興支援を応援しよう！と盛り上げました。

(新)森づくりセンターが完成しました！
今秋オープン予定です

びわこ地球市民の森では、県民の皆様との協働による森づくりを進めています。このたび、地域の市民活動や校外学習の拠点としての機能を有する施設として、植樹の受付や指導、参加型の維持管理、樹木の成長記録、児童学習指導等を行う拠点施設となる（新）森づくりセンターの新築工事が完成しました。「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」の施行により、県においても平成24年2月に「公共建築物における滋賀県産木材の利用方針」を策定されましたが、本工事はこの方針に基づき県産木材を積極的に利用する、初めての木造建築となります。

県産木材を利用することにより、皆さまに木材の暖かみと潤いのある快適な学習環境や活動の場を提供することができます。秋のサポーター活動からは新しいセンターを拠点に活動いたします。水廻りやトイレなども充実し、施設もゆったりとくつろいでいただける空間になっています。どうぞお楽しみに！

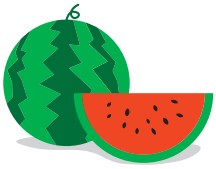
展示スペース

セミナールーム

水廻り設備

お知らせ

平成25年度第２回森づくりサポーター活動のご案内をいたします。
暑い最中ですが、皆さんの参加をお待ちしています。
よろしくお願いいたします。



実施日	平成 25 年 7 月 20 日（土）
開催場所	びわこ地球市民の森
内　容	植栽地の管理作業と自然教室

樹木の名前 豆知識シリーズ その10

前号に続き、「薔薇」のお話です。「薔薇」は読める人が多いとはいえ、ガーデニングやフラワーデザイン関係を除くと、日常的に「薔薇」という字を目にする機会はそう多くはありませんね。

そこで、「薔薇」という言葉にちなんだ事柄を2、3あげてみましょう。

15世紀後半のイギリス史に『薔薇戦争』の時代というのがあります。もともとは、「30年戦争」というのですが、17世紀前半の中央ヨーロッパを舞台にした「30年戦争」と区別するため、後世、「薔薇戦争」と呼ばれるようになりました。当時の有力貴族、ヨーク家とランカスター家が王位継承をめぐって相争った大規模な内戦ですが、ヨーク家が「白薔薇」、ランカスター家が「紅薔薇」を記章（日本でいうと旗印でしょう）にしたようです。紆余曲折を経て、結果的には政略的な姻戚関係もからんでランカスター派が勝利し、ヘンリー7世による「チューダー王朝」が成立しました。以後、絶対主義王政が完成していき、16世紀後半のエリザベス女王（一世）治世へとつながり、その後のイングランド王国→イギリス（大ブリテン）王国の繁栄の道へと続くことになりました。

次に、『薔薇の騎士』です。これは、リヒァルト・G・シュトラウス作曲の「楽劇」（大規模な「歌劇」）です。舞台設定は18世紀のマリア・テレージア（テレサ）治世下のオーストリアのウィーン。その当時、宮廷では婚約に先立って、花婿から花嫁に「銀の薔薇（造花）」を贈る習慣があり、その薔薇を届ける使者を“薔薇の騎士”と呼んでいたようです。華麗な、そして当時の多少退廃ぎみの貴族社会を舞台に、「銀の薔薇」を巡る恋模様が織り成すロマンティック・ストーリーとも、喜劇ともいえる歌劇です。

これを題材にしたミュージカル「愛のソナタ」は、2001年、日本の「宝塚歌劇団」が「東京宝塚劇場」の柿（こけら）落しで公演して、好評を得た作品でした。

ちなみに最近、『薔薇の騎士』は「アニメ」に登場する主人公、謎の人物や架空の部隊名としても出てくるので、現代の子ども達にはお馴染みになっているかもしれません。

さて、もともとは中国から入った漢字の「薔薇」ですが、明治時代の文学までは音読みで（しょうび）とか（そうび）と読まれていました。「古今和歌集」、「源氏物語」にも「あだなる物」（「紀貫之」）、「をかしきもの」として、「そうび」と詠われているそうです。

そこで、「薔薇」の「薔」（しょう）ですが、「嗇」は「納屋や倉を囲む（回）塀や垣」を表し、これに草冠がついて、植物によって塀や垣（生け垣）で建物を囲んだ状態を表しています。

一方、「薔薇」の「薇」（び）ですが、「薇」の「微」は熟語の「微細」とか「微少」とかでもわかるように「かすかな」「ほのかではっきり見えない」「小さくて目立たないさま」を表す字です。これに草冠をのせたのが「薇」です。語源的には非常に小さいくるくるっとした芽を出してくる植物（例えばマメ科の雑草、スズメノエンドウ、カラスノエンドウ等）を指していたそうですが、（ばら）の芽立ちもよく似ているとされたのでしょうか、そして生長すると垣根、柵として利用もできる「薔薇」（しょうび）という言葉（音読み）になったそうですが、これが日本に伝えられ、後年、日本語の（ばら）に当てられるようになりました。

ところで、「薇」は日本に入ってから、単独では、なぜか訓読みで山菜の「ぜんまい」に当てられました。「ゼンマイ」が春先の山菜として、やはり、小さく、小さなくるくるっとした芽を出してくるからなのでしょうか、山菜を扱っている八百屋さんならご存じなのでしょうが、一般的には「薔薇」は、「熟語では（ばら）と読める」のに、分けてしまうと読むにしても書くにしても、どちらも難しい漢字となっているようです。

次回は、「石楠花（しゃくなげ）」のお話にします。

（文責：柳田英俊）

編集後記

「里の森ゾーン」では、昨年度、新たにトイレ、休憩施設、駐車場、案内看板が増設されるなど施設が充実し、一層利用しやすくなりました。

さらに秋には新たな「森づくりセンター」がオープンします。森のサポーター活動、学習、観察、散策など行う拠点施設として大いに活用されることになるでしょう。

今年の夏も猛暑が予想されますが、森の内と外とでは大分体感温度が違います。森の爽やかな天然クーラー体験にお出かけください。

森の植樹状況　2013.5月末現在

植栽面積	76,338㎡
参加者数	45,743人
植栽本数	156,306本
（つどいのゾーン）	23,666本
（ふれあいゾーン）	37,459本
（出会いのゾーン）	21,158本
（里の森ゾーン）	74,023本